

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3373700420		
法人名	社会福祉法人 千寿福祉会		
事業所名	グループホーム ほほえみ (ほほえみ)		
所在地	岡山県美作市福本911-1		
自己評価作成日	令和 3 年 2 月 20 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai gokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3373700420-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社プランチピース		
所在地	岡山市中区江並311-12		
訪問調査日	令和 3 年 3 月 16 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・自然の中で季節を感じながら生活できる。
 ・職員と利用者の中にカベを作らず、和気あいあいと笑顔で生活出来る。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は四方を山に囲まれた田園地帯の中に位置し、居室から木々の芽吹きを見たり鶯の鳴き声を聞くことができる等、季節の移ろいを感じる事が出来る。優れている点として、協力医の支援が手厚く何時でも気軽に相談に応じて貰えること、利用者の状況に合わせて時間の工夫や特浴を実施していること、ユニットを超えてケアプランの共有がなされていること等がある。工夫点としては、地震に備えて居室のタンスを固定していること、かつての生活を思い出し生活の刺激を得るために菓子の100円バイキングの計画をしていること等がある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念はホーム内の良く目につく所に掲示して職員は常に確認ができる。地域との関わりやふれあいを大切にしている。	施設長を中心に刷新した理念を玄関やトイレ等に掲示すると共に、カードを作成し職員全員に持たせている。また、月に一度のミーティング等で周知し、共有と実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の行事や催しには、利用者の状態により、出向いたりボランティアとのふれあい(2ヶ月に一度)を大切にしている。	コロナ禍以前は、幼稚園の訪問や日本舞踊・手品等のボランティアを受け入れたり、公民館で開催されるカラオケ等に参加したりしていた。今年度は民生委員の清掃ボランティアを受け入れることを検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	美作市で開かれる研修や発表会などには出席して、情報や意見の交換をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は偶数月に出来るだけ行うようにしている。出席者からの意見・情報を参考にし、現場に活かすようにしている。	現在は施設長・生活相談員・看護師・管理者・ケアマネージャーが参加して実施し、その内容を文書で家族等に知らせている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村の専門機関とは常に連絡を取り、分からない事は直接相談している。	管理者が窓口となり、何かあればその都度、直接市役所へ出向いたり、電話等で話し合ったりしながら協力関係を築きつつ、連携に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関はもちろん、その他の出入口や居室の施錠はしていない。不穏の利用者には気分を落ち着かせる為に職員が付き添い散歩する。	法人が実施する研修(年3~4回)やデイサービスと合同で行う研修等に参加し、職員間の意識統一を図りながら身体拘束をしないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての認識は職員全員が把握している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	過去にも現在もこの制度の利用者はいないが、研修などには参加して知識を得る。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時前の面接の時に重要事項の説明をし、ご家族・ご本人の希望や質問、疑問などに答える。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の会を中心に大きな行事(秋祭り・七夕など)の後に話し合いを持って、意見・要望を改善に繋げている。	現在は請求書を送る時に手紙を入れ、家族等から意見や要望を聞き取るようにしている。出された意見は、看取りの実施等に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月はじめにミーティングや職員会議などで話し合った事は職員間で共有している。	月に一度のミーティングや必要時に開催する職員会議の時に、職員の意見や提案、要望を聞いている。出された意見は、ケアの改善や日用品の買い物等に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現場で経験があり、資格取得が必要な職員や新人の職員には研修と勉強会に出席するように勧めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりと話す時間を作り、何でも話せるコミュニケーション作りを努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会や勉強会には、都合のつく職員と一緒に参加するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所の申し送りを頂いた方には事前に面接を行い、家族やご本人の希望を十分に聞く。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時の話し合いでは意見や希望をしっかりと聞き、信頼関係を作る。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時々に応じて、ケアマネージャーや他の事業所との連携を取りあう。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者のその時々状況に応じて孤独感に陥らないよう声かけをしたりして、さりげなく、そっと寄り添いながら見守りしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が面会に来られた時は居室・ホール又は玄関など、希望される場所でご本人とゆっくりと寛げる空間を提供する。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	買い物やお出かけの際、実家の近くへドライブをしたりして、安心して頂く。	介護度の上昇とコロナ禍により、馴染みの人や場との関係を継続することが難しい状況にある。かつての生活を思い出し、また、生活の刺激を再現するためにお菓子等の100円バイキングの実施を検討している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	好きな様にゆっくり過ごしていただく。利用者同士の相性も考えながら座る位置を配慮する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	すでに退所されたご家族にも電話や便りをしたり、待ちで出会った時は行事の案内などをさせて頂く。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者と一対一で関わる時間(入浴・排泄・レク)などにはふれあいの時間を大切にして、昔話や趣味などをして話を盛り上げる。	入浴時を中心に利用者の話を傾聴することに努めている。利用者から昔の苦労話を聞くことにより、より深く相手を理解すると共に親近感も増してきている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者一人ひとりを大切に思っていることを伝え、安心して過ごしていただける様に声をかけをす。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の生活リズムや健康状態なども考慮しながら、入浴や居室でのお昼寝なども取り入れている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1度のモニタリングには利用者主体のケアを考え、職員には担当者会議又はミーティングで徹底している。御家族には郵送したり、話したりする。	計画作成担当者が案を作成し、ケアマネージャーと連携した後に職員間で共有している。モニタリングは毎月実施し、見直しは必要に応じて柔軟に行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎月のミーティングや毎日の申し送りを通して利用者の変化やSOSの現状を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	型にはまったサービスに捉われず、柔軟な支援・ケアサービスをし、多機能化に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区の町内会長、民生委員の意見を取り入れ、第三者委員会の意見も聞く。地元の訪問理容を取り入れている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者は月一度の受診は血液検査を行っている。かかりつけ医との連携を取り、利用者の状態によっては往診してもらう。	利用者・家族の意見を聞いて納得したかかりつけ医となっている。協力医以外の受診も職員が同行している。協力医との連携が24時間可能であり、家族や利用者に医療面での安心感をもたらしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2で訪問看護を取り入れている。同事業所内のナースなので、急患などすぐにはんだん・対応が出来るので安心できる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院になった時は、ご家族と話し合い、情報の共有をしながら一日おきの見舞いの際に状態を観察する。洗濯物を持ち帰る。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末ケアについては、入所時の面接の際に希望を聞く。御家族の要望があればターミナルケアも行っている。	利用開始時及び状況に応じて家族と話し合い、意思の確認をしている。ほとんどの家族が看取りを希望している。本部の研修を基に、看護師が事業所で研修を行うことで、看取りに対する職員の不安感を取り除いている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所内で行う研修や職員会議に参加し、テーマ毎に勉強する。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は年に2～3回実施し、他の部署の消火訓練にも参加する。	法人内の事業所がそれぞれ実施する避難訓練に参加するなど、相互に支援し合っている。また、水害を想定し、デイサービスの建物まで避難することを視野に入れた訓練も実施している。特養の2階倉庫に十分な水と食料を備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	特にトイレ。入浴介助の際は声かけには十分気をつけ、個人の尊厳を傷つけない様に配慮している。	トイレ使用時・入浴時にはとりわけ、プライバシーを確保し、声のトーン等に留意したり見守りを行っている。利用者から地域の生活の慣習等を教えてもらうことで、尊敬の念を高めている。	トイレの棚に置いてあるオムツ等への記名について、より細やかな配慮に期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴やその日に切る衣服はご自分で選んで頂く。入浴の着替えも同じ。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様が心地良く安心して生活していただける様に配慮する。不穏状態の方にはそっと見守り寄り添うケアをする。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日に着る衣服はご本人が選ぶ。誕生日会、行事などには、お洒落を頂く(化粧など)		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は3日に一度、業者から届く。食材を高齢者の口に合うように味付をする。	真空パックされた刻み食・ミキサー食等、利用者の状況に応じた形態の食事が定期的に届いている。担当の職員がそれらに利用者の好む味付けをしている。誕生日やクリスマス等の行事には、ちらし寿司を作ったりケーキを添えたりして食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事については管理栄養士が作成したメニューなので安心している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは厳重にする。自分で出来ない方にはガーゼやスポンジブラシで職員が手伝う。義歯洗浄は夜間毎日する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	夜間おむつ使用の方も日中はリハビリパンツにし、トイレでの排泄を促す。時間おきに誘導する方もある。	日中は、一人ひとりに応じた言葉かけと誘導により、全ての利用者がトイレで排泄している。夜間は、利用者の状態・状況合わせて個別に対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	慢性便秘の方以外はなるべく飲み物、食べ物工夫で改善している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴はそれぞれ声かけをし、出来るだけ多くの方に入って頂く様に声かけする。大体週2～3回。入浴中の声かけに配慮し、見守る。	利用者の状況に応じて週に2～3回、午前と午後に分かれて入浴している。利用者はおしゃべりを楽しみ、職員は聴くことに努めている。話の中から生活の中の仕来り等を学ぶこともある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や夜の睡眠時間により時には日中のお昼寝をすすめたり、取り入れている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は一週間分ずつ小分けにしている。服用の際は職員同士の声かけで誤薬防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活歴や趣味などを考慮して、その方に向いた作業や手伝いを楽しみながら出来る様に声かけをする。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	戸外での散歩は職員が付き合う。面会の際、外出希望があれば快く受け入れ、ご家族にお願いする。	介護度の上昇とコロナ禍で難しい状況にあるが、デイサービスのカラオケに参加したり、ウッドデッキや駐車場で日光浴やお茶を楽しむ等の計画をしている。また、敷地内で花見を予定している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族から預かっているお金の中からホーム内でバイキングで買い物をしたり、移動店が来たらパン等を買う。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者からご家族や知人に電話の希望があればその場でかける。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール、居室内の雰囲気作りに配慮している。特に壁画では季節感を感じて頂けるようなテーマを取り入れる。	居間は広くて明るく、光や音・温度が適切に管理されている。壁には利用者の書写の作品や生花等が置かれ、季節感を醸している。車椅子でユニット間の移動をする際の安全性を考慮して、簀の子を取り付けて段差を解消する等の工夫もしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室・ホールに関わらず、利用者が思うように寛いで頂ける空間作りに気を付けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時の面接の時に、ご本人の馴染みの品があれば持参して下さいと話している。こだわりがあれば、何でも持参してもらおう。	各室とも洗面台が設置され、利用者の利便性を考慮している。持ち込まれたタンスを壁に固定するなど、安全性への配慮も見られる。家族からのカードや写真等が置かれ、その人らしい部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内はご本人が分かり易く生活しやすように配置している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3373700420		
法人名	社会福祉法人 千寿福祉会		
事業所名	グループホーム ほほえみ (ひだまり)		
所在地	岡山県美作市福本911-1		
自己評価作成日	令和 3 年 2 月 20 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai gokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoId=3373700420-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社プランチピース		
所在地	岡山市中区江並311-12		
訪問調査日	令和 3 年 3 月 16 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・自然の中で季節を感じながら生活できる。
 ・職員と利用者の中にカベを作らず、和気あいあいと笑顔で生活出来る。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は四方を山に囲まれた田園地帯の中に位置し、居室から木々の芽吹きを見たり鶯の鳴き声を聞くことができる等、季節の移ろいを感じる事が出来る。優れている点として、協力医の支援が手厚く何時でも気軽に相談に応じて貰えること、利用者の状況に合わせて時間の工夫や特浴を実施していること、ユニットを超えてケアプランの共有がなされていること等がある。工夫点としては、地震に備えて居室のダンスを固定していること、かつての生活を思い出したり生活の刺激を得るために菓子の100円バイキングの計画をしていること等がある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念はホーム内の良く目につく所に掲示して職員は常に確認ができる。地域との関わりやふれあいを大切にしている。	施設長を中心に刷新した理念を玄関やトイレ等に掲示すると共に、カードを作成し職員全員に持たせている。また、月に一度のミーティング等で周知し、共有と実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の行事や催しには、利用者の状態により、出向いたりボランティアとのふれあい(2ヶ月に一度)を大切にしている。	コロナ禍以前は、幼稚園の訪問や日本舞踊・手品等のボランティアを受け入れたり、公民館で開催されるカラオケ等に参加したりしていた。今年度は民生委員の清掃ボランティアを受け入れることを検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	美作市で開かれる研修や発表会などには出席して、情報や意見の交換をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は偶数月に出来るだけ行うようにしている。出席者からの意見・情報を参考にし、現場に活かすようにしている。	現在は施設長・生活相談員・看護師・管理者・ケアマネージャーが参加して実施し、その内容を文書で家族等に知らせている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村の専門機関とは常に連絡を取り、分からない事は直接相談してる。	管理者が窓口となり、何かあればその都度、直接市役所へ出向いたり、電話等で話し合ったりしながら協力関係を築きつつ、連携に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関はもちろん、その他の出入口や居室の施錠はしていない。不穏の利用者には気分を落ち着かせる為に職員が付き添い散歩する。	法人が実施する研修(年3~4回)やデイサービスと合同で行う研修等に参加し、職員間の意識統一を図りながら身体拘束をしないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての認識は職員全員が把握している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	過去にも現在もこの制度の利用者はいないが、研修などには参加して知識を得る。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時前の面接の時に重要事項の説明をし、ご家族・ご本人の希望や質問、疑問などに答える。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の会を中心に大きな行事(秋祭り・七夕など)の後に話し合いを持って、意見・要望を改善に繋げている。	現在は請求書を送る時に手紙を入れ、家族等から意見や要望を聞き取るようにしている。出された意見は、看取りの実施等に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月はじめにミーティングや職員会議などで話し合った事は職員間で共有している。	月に一度のミーティングや必要時に開催する職員会議の時に、職員の意見や提案、要望を聞いている。出された意見は、ケアの改善や日用品の買い物等に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現場で経験があり、資格取得が必要な職員や新人の職員には研修と勉強会に出席するように勧めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりと話す時間を作り、何でも話せるコミュニケーション作りに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会や勉強会には、都合のつく職員と一緒に参加するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所の申し送りを頂いた方には事前に面接を行い、家族やご本人の希望を十分に聞く。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時の話し合いでは意見や希望をしっかりと聞き、信頼関係を作る。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時々に応じて、ケアマネージャーや他の事業所との連携を取りあう。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者のその時々状況に応じて孤独感に陥らないよう声かけをしたりして、さりげなく、そっと寄り添いながら見守りをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が面会に来られた時は居室・ホール又は玄関など、希望される場所でご本人とゆっくりと寛げる空間を提供する。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	買い物やお出かけの際、実家の近くへドライブをしたりして、安心して頂く。	介護度の上昇とコロナ禍により、馴染みの人や場との関係を継続することが難しい状況にある。かつての生活を思い出し、また、生活の刺激を再現するためにお菓子等の100円バイキングの実施を検討している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	好きな様にゆっくり過ごしていただく。利用者同士の相性も考えながら座る位置を配慮する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	すでに退所されたご家族にも電話や便りをしたり、待ちで出会った時は行事の案内などをさせて頂く。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者と一対一で関わる時間(入浴・排泄・レク)などにはふれあいの時間を大切にして、昔話や趣味などをして話を盛り上げる。	入浴時を中心に利用者の話を傾聴することに努めている。利用者から昔の苦労話等を聞くことにより、より深く相手を理解すると共に親近感も増してきている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者一人ひとりを大切に思っていることを伝え、安心して過ごしていただける様に声をかけをする。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の生活リズムや健康状態なども考慮しながら、入浴や居室でのお昼寝なども取り入れている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1度のモニタリングには利用者主体のケアを考え、職員には担当者会議又はミーティングで徹底している。御家族には郵送したり、話したりする。	計画作成担当者が案を作成し、ケアマネージャーと連携した後に職員間で共有している。モニタリングは毎月実施し、見直しは必要に応じて柔軟に行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎月のミーティングや毎日の申し送りを通して利用者の変化やSOSの現状を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	型にはまったサービスに捉われず、柔軟な支援・ケアサービスをし、多機能化に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区の町内会長、民生委員の意見を取り入れ、第三者委員会の意見も聞く。地元の訪問理容を取り入れている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者は月一度の受診は血液検査を行っている。かかりつけ医との連携を取り、利用者の状態によっては往診をしてもらう。	利用者・家族の意見を聞いて納得したかかりつけ医となっている。協力医以外の受診も職員が同行している。協力医との連携が24時間可能であり、家族や利用者に医療面での安心感をもたらしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2で訪問看護を取り入れている。同事業所内のナースなので、急患などすぐにはんだん・対応が出来るので安心できる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院になった時は、ご家族と話し合い、情報の共有をしながら一日おきの見舞いの際に状態を観察する。洗濯物を持ち帰る。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末ケアについては、入所時の面接の際に希望を聞く。御家族の要望があればターミナルケアも行っている。	利用開始時及び状況に応じて家族と話し合い、意思の確認をしている。ほとんどの家族が看取りを希望している。本部の研修を基に、看護師が事業所で研修を行うことで、看取りに対する職員の不安感を取り除いている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所内で行う研修や職員会議に参加し、テーマ毎に勉強する。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は年に2～3回実施し、他の部署の消火訓練にも参加する。	法人内の事業所がそれぞれ実施する避難訓練に参加するなど、相互に支援し合っている。また、水害を想定し、デイサービスの建物まで避難することを視野に入れた訓練も実施している。特養の2階倉庫に十分な水と食料を備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	特にトイレ。入浴介助の際は声かけには十分気をつけ、個人の尊厳を傷つけない様に配慮している。	トイレ使用時・入浴時にはとりわけ、プライバシーを確保し、声のトーン等に留意したり見守りを行っている。利用者から地域の生活の慣習等を教えてもらうことで、尊敬の念を高めている。	トイレの棚に置いてあるオムツ等への記名について、より細やかな配慮に期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴やその日に切る衣服はご自分で選んで頂く。入浴の着替えも同じ。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様が心地良く安心して生活していただける様に配慮する。不穏状態の方にはそっと見守り寄り添うケアをする。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日に着る衣服はご本人が選ぶ。誕生日会、行事などには、お洒落を頂く(化粧など)		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は3日に一度、業者から届く。食材を高齢者の口に合うように味付をする。	真空パックされた刻み食・ミキサー食等、利用者の状況に応じた形態の食事が定期的に届いている。担当の職員がそれらに利用者の好む味付けをしている。誕生日やクリスマス等の行事には、ちらし寿司を作ったりケーキを添えたりして食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事については管理栄養士が作成したメニューなので安心している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは厳重にする。自分で出来ない方にはガーゼやスポンジブラシで職員が手伝う。義歯洗浄は夜間毎日する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	夜間おむつ使用の方も日中はリハビリパンツにし、トイレでの排泄を促す。時間おきに誘導する方もある。	日中は、一人ひとりに応じた言葉かけと誘導により、全ての利用者がトイレで排泄している。夜間は、利用者の状態・状況合わせて個別に対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	慢性便秘の方以外はなるべく飲み物、食べ物工夫で改善している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴はそれぞれ声かけをし、出来るだけ多くの方に入って頂く様に声かけする。大体週2～3回。入浴中の声かけに配慮し、見守る。	利用者の状況に応じて週に2～3回、午前と午後に分かれて入浴している。利用者はおしゃべりを楽しみ、職員は聴くことに努めている。話の中から生活の中の仕来り等を学ぶこともある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や夜の睡眠時間により時には日中のお昼寝をすすめたり、取り入れている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は一週間分ずつ小分けにしている。服用の際は職員同士の声かけで誤薬防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活歴や趣味などを考慮して、その方に向いた作業や手伝いを楽しみながら出来る様に声かけをする。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	戸外での散歩は職員が付き合う。面会の際、外出希望があれば快く受け入れ、ご家族にお願いする。	介護度の上昇とコロナ禍で難しい状況にあるが、デイサービスのカラオケに参加したり、ウッドデッキや駐車場で日光浴やお茶を楽しむ等の計画をしている。また、敷地内で花見を予定している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族から預かっているお金の中からホーム内でバイキングで買い物をしたり、移動店が来たらパン等を買う。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者からご家族や知人に電話の希望があればその場でかける。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール、居室内の雰囲気作りに配慮している。特に壁画では季節感を感じて頂けるようなテーマを取り入れる。	居間は広くて明るく、光や音・温度が適切に管理されている。壁には利用者の書写の作品や生花等が置かれ、季節感を醸している。車椅子でユニット間の移動をする際の安全性を考慮して、簧の子を取り付けて段差を解消する等の工夫もしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室・ホールに関わらず、利用者が思うように寛いで頂ける空間作りに気を付けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時の面接の時に、ご本人の馴染みの品があれば持参して下さいと話している。こだわりがあれば、何でも持参してもらおう。	各室とも洗面台が設置され、利用者の利便性を考慮している。持ち込まれたタンスを壁に固定するなど、安全性への配慮も見られる。家族からのカードや写真等が置かれ、その人らしい部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内はご本人が分かり易く生活しやすいように配置している。		